

1 研究の構想

学校教育目標

校訓「強く 正しく 美しく」の具現化を図ることを通して、生きる力を身につけた児童を育成する。
【三つの大切】 と…ともだちを大切にします き…きもんを大切にします つ…つみかさねを大切にします

研究主題

確かな学力を身につけ、生き生きと学び合う時津っ子の育成
～45分で力をつける算数科学習～

目指す子ども像

○算数科の楽しさを実感し、進んで学力を身につけた子ども
○学び合うことよさに気づき、進んで自分の考えを表現したり友達の考えを聞いたりする子ども

研究仮説

「45分で力をつける授業モデル」を構築し、身につけた力を確かめる時間を確保することで、算数の楽しさを実感し、確かな学力を身につけることができるであろう。
また、児童同士の学び合いの場を意図的に組み込むことで、そのよさを実感し、進んで自分の考えを表現したり、友達の考えを聞いたりすることができるであろう。

研究内容

学習委員会の設置
・学習集会の実施
・ノートコンテスト 等

学習環境の整備
・校内掲示計画、作成
・算数コーナーの設置 等



「45分で力をつける算数科」の授業づくり

研究授業の実施

- ・身につけさせたい力の明確化
- ・力をつけさせるための手立て
- ・指導計画、評価の工夫
- ・教材研究 等

四十五分で力をつける授業モデルの構築

スキルタイムの充実
・取組の検討
・年間計画および準備



家庭学習の充実
・取組の検討
・HPによる周知

児童の実態
・NRT学力調査等の結果分析 等
・学習に関する意識調査

【仮説①】

「45分で力をつける授業モデル」を構築し、身につけた力を確かめる時間を確保することで、算数の楽しさを実感し、確かな学力を身につけることができるであろう。

① 授業モデルの構築
(学習過程の見える化)

- それぞれの過程においてどれくらい時間をかけてどのような活動を行うのかを明確にする。

② 身につけさせるべき力の明確化
(ゴールの見える化)

- 45分で具体的にどのような力をつけさせるのか教師が明確に把握しておく。

③ ICTの活用
(教材、思考の見える化)

- 児童に身につけさせたい力をつけるために、ICT活用でいつ、何を、どのように視覚的に捉えさせるかを明確にしておく。

④ 「確かめる時間」の確保と充実
(達成の見える化)

- 本時に身につけさせるべき力の定着を図るとともに、児童に「できた、わかった」という成就感や達成感を味わわせる。

【仮説②】

児童同士の学び合いの場を意図的に組み込むことで、そのよさを実感し、進んで自分の考えを表現したり、友達の考えを聞いたりすることができるであろう。

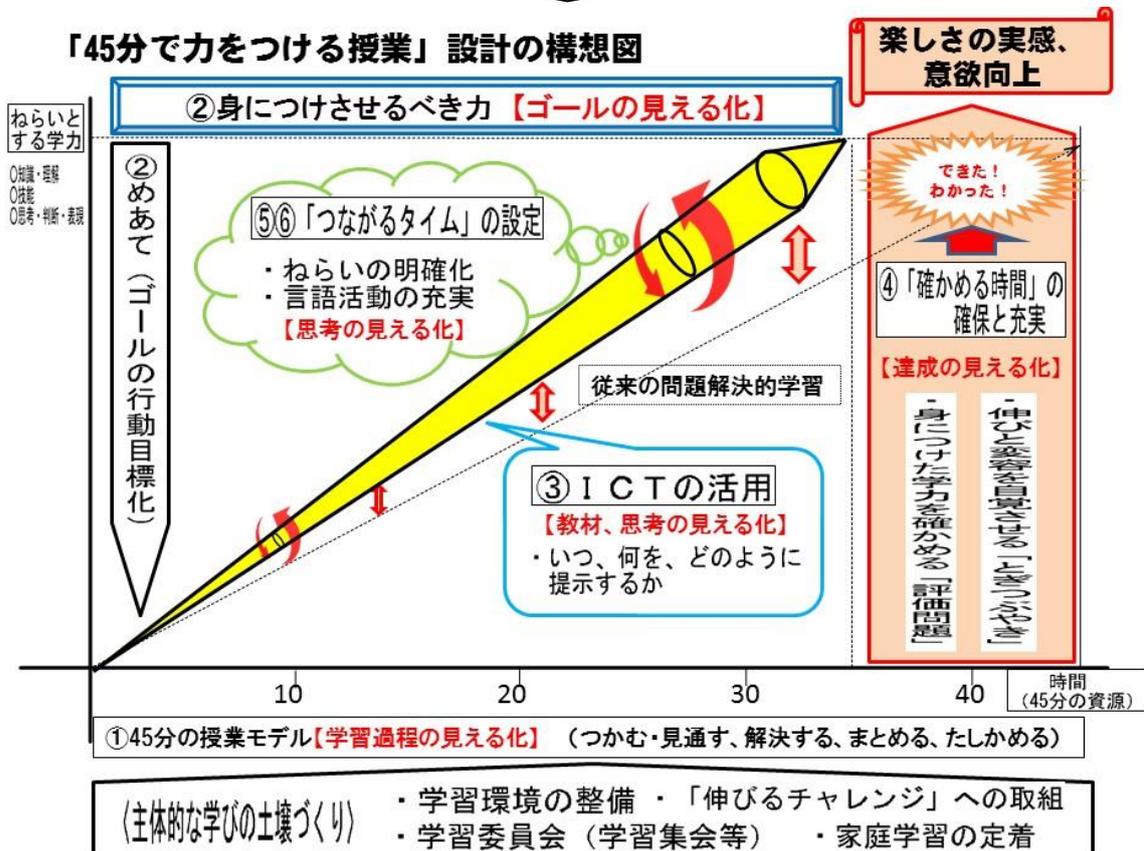
⑤ ねらいを明確にした「学び合いの場」の設定
(思考の見える化)

- 「つながるタイム」(学び合いの場)をどのようなねらいで設定するのか明確にする。

⑥ 言語活動の充実
(思考の見える化)

- 「かく」「話す」「話し合う」等の言語活動を積極的に取り入れ、自分の考えを「見える化」することで、学び合いの質を高めていく。

「45分で力をつける授業」設計の構想図



□ 研究の実際 □

3 45分の授業構想

① 授業モデルの構築

② 身につけさせるべき力の

明確化

45分で力をつける授業モデル（1単位時間）			
時間	学習過程	学習活動	手立て・指導上の留意点
10分	つかむ・飛通す	1. 問題を把握する。 ○めあてを確認する。  2. 解き方の見通しをもち、発表する。 ○解き方の見通しをもち、発表する。 ※1, 2は前後しても可	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な教材を提示し、課題をとらえやすくする。 ゴールをイメージできるようにめあての設定。（めあての見える化） 教科書やノートから前時までの学習内容を振り返らせ、解き方の糸口を見つけさせる。 答えの見通しと解き方の見通しをもちたせる。
20分	解決する	3. 問題を解決する。 ○自力解決をする。  ○集団解決をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒントカード等を用意し、学習したことが活用できることに気づかせる。 式や図、表を用いて考えを書かせる。 教科書を活用して、考え方を理解させる。 解き方をペアやグループで話し合わせる。 わかった児童に、解き方を説明させ教え合う活動を取り入れる。
5分	まとめる	4. 本時のまとめをする。 ○まとめを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> どのようにしてめあてを達成することができたのか、児童とのかかわりから出た言葉を使ってまとめる。
10分	たしかめる	5. 理解を確かめる。 ○類似問題を解く。 ○「とぎつぶやき」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 早く終わった児童は、近隣の児童に教えるよう促す。 本時の学習で「できたこと」「わかったこと」を自分の言葉で書いてまとめさせる。（ふきだし法）

ア 「めあて」の行動目標化

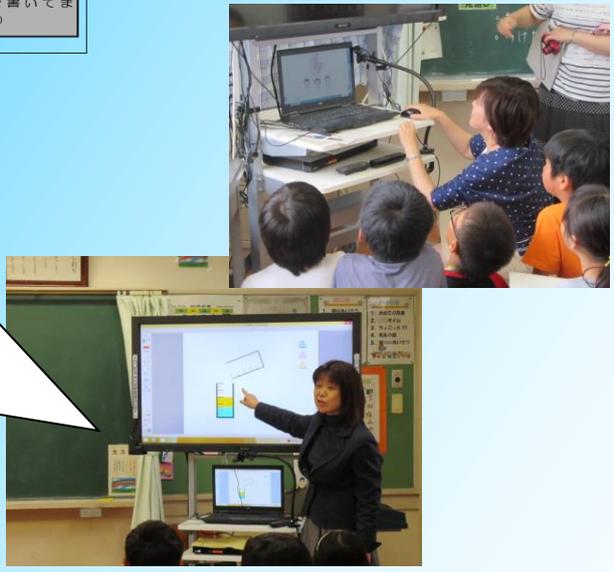
1時間（45分）で何ができるようになるればよいのか、ゴールの姿をイメージできるような「めあて」の設定。

イ 「見通す」過程の充実

- 既習内容との関連
- 「答え」と「解法」両面の見通し

③ ICTの活用

- 【ICT活用の効果】**
- ① 学習に対する興味・関心を高めることができる。
 - ② 児童一人一人に課題を明確につかませることができる。
 - ③ わかりやすく説明したり、児童の思考や理解を深めたりすることができる。
 - ④ 学習内容をまとめる際に、児童の学力の定着を図ることができる。



【教材提示・発表ツールとしてのICT活用のポイント】

- ・アニメーション化（出す、消す、隠す、変形する 等）
- ・拡大化 ・焦点化 ・繰り返し ・着色 ・書き込み



④ 「確かめる時間」の確保と充実

ア 類似問題の活用

- 身につけさせたい力の定着を図る。
- 「できた、わかった」という成就感、達成感を味わわせる。

イ 「とぎつぶやき」(吹き出し法)

- 「できた、わかった」、自己の変容を自覚させる。
- 次時への学習意欲を高めさせる。



学 年	「とぎつぶやき」の内容 (記載方法)
低 学 年	• 学習の感想、できた時、わかった時の気持ち (文章、記号、イラスト 等)
中 学 年	• できたこと、わかったこと、まだよくわからなかったこと (文章、記号 等)
高 学 年	• 1 時間 (45 分) の変容、今後の学習に向けて 等 (文章)

⑤ 「つながるタイム」の設定

ア ねらいを明確にした 学び合いの場の設定

各過程において、どのような意図で学び合いの場を設定するのかを明確にする。

イ 言語活動の充実

言語活動のプロセスを明確にすることで、考えの「見える化」を図る。

【言語活動の3段階】

かく

• 自分の考えを書き出す。

話す

• 自分の考えを伝える。

話し合う

• お互いの考えを吟味する。

「つながるタイム」のねらいと実際

ア 「つかむ、見通す」における「つながるタイム」

- ねらい
- めあてを明確にする。
 - 見通しをもつことで自力解決の算数的活動を明確にする。

形 態	「つながるタイム」を仕組む視点
全体 (ペア、グループ)	<ul style="list-style-type: none"> • 課題における前時との比較 • わかっている情報や必要な情報 • 既習事項との関連 • どのように解くか、解き方や答えの見直し

イ 「集団解決」における「つながるタイム」

- ねらい
- わからなかった考え方がわかる。
 - 多様な考え方がわかる。
 - よりよい考え方を作り上げる。
 - 数学的な考え方のよさがわかる。
 - 知識や技能を身につける。

形 態	「つながるタイム」を仕組む視点
ペア、グループ	<ul style="list-style-type: none"> • 考え方の意見交流 (算数的表現の活用) ※ 「まず」「つぎに」などの手順根拠が明確 図や表、グラフや式との関連 算数用語の活用
全 体	<ul style="list-style-type: none"> • 考え方の関連 (友達との関連、既習事項との関連) • 考え方の比較 ※ 同じ考え方…説明の仕方のよさに気付く ※ 違う考え方…考え方のよさに気付く • 考え方の評価 • 考え方の変容、発展

ウ 「たしかめる」における「つながるタイム」

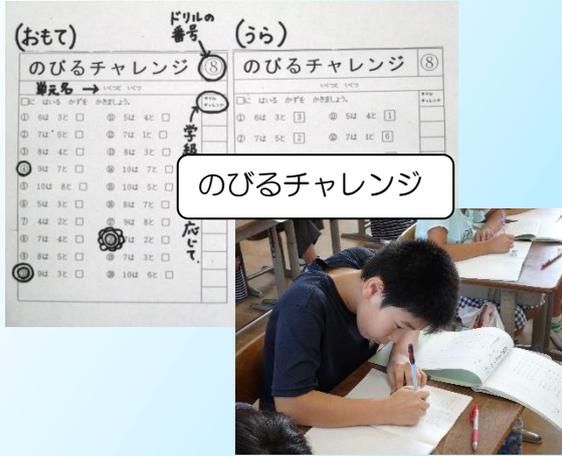
- ねらい
- 「実際に身につけさせたい力」を確実に身につける。
 - 「できた」「わかった」を実感する。
 - 次時への意欲を高める。

形 態	「つながるタイム」を仕組む視点
ペ ア 全 体	<ul style="list-style-type: none"> • 類似問題の教え合い (特選っ子先生) • 「とぎつぶやき」の交流

4

学習を支える取組

① スキルタイムの充実



② 学習環境の整備



③ 学習委員会の設置

～子ども自身が学びを創る～
学習集会「のびる時津っ子集会」



④ 家庭学習の充実



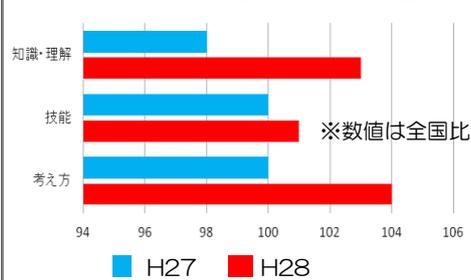
児童作成ノートのHPへの掲載 等

成果と課題

成果

- ① 学習意識の変化
- ② 観点別に見た学力の向上
- ③ 自力で学びを進める児童の育成
- ④ ICTの有効活用

NRT学力調査結果(算数)(全校)



課題

- ① 表現力(説明力)のさらなる向上
- ② 学び合いの場の一層の充実
- ③ 学校の学習と連携した家庭学習のあり方